

豊川悦司 寺島しのぶ
長谷川京子 仲村トオル 佐藤浩市 陣内孝則
浅田美代子 佐々木蔵之介 貫地谷しほり 松重 豊 本田博太郎 余 貴美子
富司純子 津川雅彦

原作:渡辺淳一 脚本:鶴橋康夫 音楽:大島ミチル
(幻冬舎刊)

鶴橋康夫 監督作品
「永遠の仔」「若なき者」

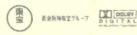
愛の流刑地

もう、だれにもさわらせない



airuke-movie.com

製作:富山省吾 製作統括:島谷能成 三浦 姫 西垣慎一郎 石原正康 島本雄二 二宮清隆
プロデューサー:市川 南 大浦俊将 秦 祐子 協力プロデューサー:倉田貴也 プロダクション統括:金澤清美
技術:岩澤英二 撮影:村瀬 清 鈴木富夫 美術:部谷京子 録音:甲斐 匡 照明:藤原武夫 編集:山田宏司 助監督:酒井直人 製作担当:傳野貴之
製作プロダクション:東宝映画 製作:「愛の流刑地」製作委員会(東宝/日本テレビ/読売テレビ/幻冬舎/電通/東北新社/日本経済新聞社) 配給:東宝 ©2007「愛の流刑地」製作委員会





現代を生きる、すべての大人の女性に捧げる、“究極の純愛”ストーリー

ある朝ひとりの男が逮捕された。情事の果てに女性を絞殺したのだ。男の名は村尾菊治（豊川悦司）。被害者の名は入江冬香（寺島しのぶ）。菊治はかつて恋愛小説の旗手として注目された作家だったが、今では世間から忘れられた存在だった。「愛しているから殺した」——事件を担当する女性検事・織部美雪（長谷川京子）は、菊治の言葉に困惑しながらも真相を探っていく。

菊治は自分のファンであるという人妻・冬香と出会い、恋に落ちた。愛されることを知らずに生きてきた冬香。逢瀬のたびに心と軀を烈しく求め合うふたり。そして「首を締めて欲しい」という冬香の求めに応じ、菊治は冬香を殺めてしまう。「なぜ男は女を殺したのか、そしてなぜ女は死を望んだのか」——織部はこの疑問を抱えたまま裁判の時を迎える。そして法廷の扉が開かれた。今、愛と死の真相があきらかになる。

原作は、ベストセラー作家渡辺淳一が、男と女の根源的な相違をテーマに、深遠な愛を描いた恋愛小説「愛の流刑地」。04年11月から06年1月まで、日本経済新聞で連載された同作は、読者である経営者、サラリーマン、そしてOLの間で「朝の話題は愛ルケから」が広まる一方、その過激さゆえ、賛否両論を巻き起こすなど、まさに

日本中を「愛ルケ」現象で覆いつくした。

監督・脚本は、鶴橋康夫。1962年読売テレビ入社、以後一貫してドラマ演出を手がけ、「永遠の仔」「砦なき者」などテレビ史に燦然と輝く作品を数多く世に送り出した。ドラマ演出歴40年以上のキャリアにして、日本映画界待望の映画監督第一作となる。

主人公・村尾菊治役に、豊川悦司。入江冬香役に、寺島しのぶ。映画界を代表するトップスターのふたりが、文字どおり全身全霊を込めて、“菊治と冬香”の愛の軌跡を熱演する。

菊治の罪を追及する女検事・織部美雪役に、長谷川京子。法によって菊治を裁く立場でありながら、自分の過去にこの事件を重ね合わせ、しだいに冬香に共感してゆく。さらに、仲村トオル、佐藤浩市、陣内孝則、浅田美代子、佐々木蔵之介、貫地谷しほり、松重豊、本田博太郎、余貴美子、富司純子、津川雅彦ら、ふたりを取り巻く様々な人間模様を映し出す、多彩かつ重厚なキャストिंगが実現した。

男はどこまで女を愛せたのか。女はどこまで男を愛したのか。映画「愛の流刑地」は、愛の果てに辿り着ける、男と女の“究極の純愛”を描く、現代を生きる女性必見のラブストーリーである。



2007年1月13日<土> 全国東宝系ロードショー

フジTV前・ブクアシティ お台場
シネマメディアージュ
☎ 03 (5531) 7878
通常料金での全席指定・定員入替制
<http://www.cinema-mediage.com>